

令和7年度

「運営に関する計画・自己評価(最終評価)」
及び「学校関係者評価報告書」

最終評価

大阪市立伝法小学校

令和8年3月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 令和6年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は81.2%。
- 令和6年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答した児童の割合は29.5%。
- 令和6年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50.3%（10月以降、2月末まででは、70.3%）

中期目標（令和7年度末まで）

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を30%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。

2 年度目標（中期目標の達成に向けて）

全市共通目標・学校の年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（84.5%）以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（79.2%）以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を30%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。
- ・ 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度（72.8%）以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。（前年度50.3%）
- ・ 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%以上にする。（前年度96.2%）

3 本年度の自己評価結果の総括

中期目標の達成状況

【安全・安心な教育の推進】

「令和7年度の小学校学力経年調査における『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』に対して最も肯定的な『思う』と回答する児童の割合を85%以上にする。」については、86.8%と目標を達成することができた。本校がここ数年、いじめを許さない学校づくり、すべての子どもが安心して登校できる安全な学校づくりを教育活動の柱に据え、日々の児童理解や実践、いじめへの早期対応、家庭との連携を大切にしてきたことが一定の成果として表れたと考えられる。ただし、現状で満足せず、本来ならば、100%であるべきところだと認識し、今後も取組を推進し続ける必要がある。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

「令和7年度の小学校学力経年調査における『学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか』に対して、最も肯定的な『あてはまる』と回答する児童の割合を30%以上にする。」については、31.3%と、目標を達成することができた。今後も校内の研究活動や研修によって授業改善を図り、主体的・対話的で深い学びを目指した授業づくりを学校全体ですすめていくことが大切である。

【学びを支える教育環境の充実】

「令和7年度の授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。」については、75.7%と目標を達成することはできなかった。しかしながら、前年度から25%以上数値が上がり、「心の天気」や「デジタルドリル」、「コグトレ」、日常の学習での活用等を全ての学年で推進してきた結果であると考えられる。より有効な活用方法の共有や教職員の活用スキルの向上を図りながら、引き続き積極的な活用を進めていきたい。

その他の年度目標の中では、「自分にはよいところがある」と肯定的に回答する児童の割合が86.1%と大きく上昇した。日頃から、互いの良さや違いを認め合うことを大切にしてきたことが結果につながっていると考えられる。一方で、学力については、向上しているところはあるが、数値目標には届かなかった。これまで進めてきた学力向上の取組を検証し、改善を図っていきたい。

大阪市立伝法小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（84.5%）以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を前年度（79.2%）以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【本市基本計画番号1-1 いじめへの対応】</p> <p>「いじめについて考える日」の取組や、アンケート等の実態把握、自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う学習活動を通して、いじめを許さない集団づくりに努める。</p> <p>指標 「いじめについて考える日」の取組を年1回、いじめアンケートを年3回、他学年とのメッセージ交換をする「ぼかぼかの木」を各学期1回実施する。</p>	B
<p>取組内容②【本市基本計画番号1-2 不登校への対応】</p> <p>「心の天気」、「アセス」、スクリーニング会議、家庭訪問、スクールカウンセラー等を活用し、子どもの困り感に応じた丁寧な対応と、情報共有、不登校の早期対応・解消に努める。</p> <p>指標 不登校の未然防止や早期対応・解消に向けた教員間の情報共有を月1回実施する。</p>	B
<p>取組内容③【本市基本計画番号1-3 問題行動への対応】</p> <p>毎朝、校門前でのあいさつ指導や、児童会の「あいさつ運動」を実施し、自ら進んで気持ちのよいあいさつができるようにするとともに、規範意識や自律の意識を高める。</p> <p>指標 「あいさつ強化週間」を年3回実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<ul style="list-style-type: none"> 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合は86.8%であった。 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は83.5%であった。 「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合は86.1%であった。 <p>① 「いじめについて考える日」には、各学級で授業を通していじめについて考える機会を設けることができた。いじめアンケートも計画通り実施しており、実施後は各担任が丁寧に聞き取りを行い、対応することができている。自己有用感や自己肯定感を高める取り組みとして、ぼかぼかの木だけでなく、各学期の特技集会やでんでん漢字検定の表彰などを行うことがで</p>	

きた。

- ② 「心の天気」、「アセス」を活用することで児童の困り感をとらえ、児童との対話や家庭訪問、電話対応などで対応している。月に1度児童理解の会議を開き、児童の様子を伝え合うことで、他学年の児童の情報も共有することができた。
- ③ 児童会が中心となって取り組む「あいさつ強化週間」は計画通り実施することができた。「あいさつ強化週間」の期間中は児童のあいさつに対する意識は高まった。普段は、あいさつされると元気にあいさつを返す児童は多い。一方で、「自ら進んで気持ちのよいあいさつ」ができる児童は限られている。

次年度への改善点

- ① 「ぼかぼかの木」や「特技集会」の取り組みを継続し、子どもの自己有用感や自己肯定感を高める。また、「いじめについて考える日」の取り組みも継続し、いじめを許さない集団づくりに努める。
- ② 今後も、「心の天気」と「アセス」を活用して児童の実態の把握、困り感の早期発見、解消に努め、必要に応じて家庭と密に連携を取るようにする。教員間で情報共有したことは、skipのいいところみつけに記録し、次年度に確実に引き継ぐ。
- ③ 「自ら進んで気持ちのよいあいさつ」ができるようにするために、あいさつ運動の取り組み内容を工夫する。掲示物やポスターなど日々意識してあいさつができるような取り組み内容にしていく。

大阪市立伝法小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合を30%以上にする。 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。 令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.1ポイント向上させる。 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を前年度(72.8%)以上にする。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【本市基本計画番号4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながる授業研究会を全学年で年間1回以上行い、学力向上につながる指導力の向上に取り組む。</p> <hr/> <p>指標 各教員において研究授業を年間1回以上実施する。また、指導力向上に向けた校内研修会を年1回以上実施する。</p>	B
<p>取組内容② 【本市基本計画番号4-1 言語活動・理数教育(思考・判断・表現)の充実】</p> <p>始業前や「伝法タイム」を活用して読み・書き・計算などの基礎的・基本的な知識・技能を着実に身に付けさせるとともに、家庭学習も含めた学習習慣の定着を図り、学力向上を目指す。</p> <hr/> <p>指標 音読タイムと読書タイムを週1回、2・3年対象の放課後学習を週2回以上、でんでん漢字検定を学期1回実施する。</p>	B
<p>取組内容③ 【本市基本計画番号5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>子ども困り感に目を向け、体づくりを軸にした運動を体育科や日々の生活の中に取り入れ、体力・運動能力の向上に努める。</p> <hr/> <p>指標 運動に触れる機会につながるチャレンジタイムとデンリンピックを年間1回以上実施する。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>・経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「あてはまる」と回答する児童の割合は31.25%だった。</p>	

- ・経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると5年生(0.09)と6年生(0.1)は向上し、4年生は0.06ポイント減少した。
- ・経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較すると5年生(0.04)と6年生(0.07)は向上し、4年生は0.05ポイント減少した。
- ・経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合は79.6%だった。(前年度 72.8%)

① 計画的に研究授業や公開授業、校内研修を実施することができた。また、スクールアドバイザーを招いての研修会も目標以上に行うことができた。中間評価の際に、後期への改善点として挙げている「小授業の参観者や討議会の参加者が少ないこと」についても3学期になるにつれ増えてきた。(学級の自習体制が整ってきたことが関係していると考えられる。)

② 音読タイムについては、学級によって毎週実施できていないところがあった。でんでん漢字検定については、合格しようとする児童が増えた。一方で、宿題などで事前に取り組んだ学級と取り組んでいない学級とで差があった。家庭学習については、保護者アンケートの「伝法小学校は、家庭での宿題等の学習を自主的に取り組めるような指導をしている」の項目において、肯定的回答が前期後期ともに昨年度より数値が伸びており、一定の成果が見られた。

(R6 前期 74.3%、後期 72.7% / R7 前期 84.1%、後期 79.1%)

③ 計画的にチャレンジタイムやデンリンピックを行うことができた。チャレンジタイムについては、普段外へ出て遊ぶことのない児童も楽しそうに取り組んでいる姿が見られた。また、冬のかげ足運動についても積極的に取り組む姿が見られた。運動場の使用が制限される中で、外へ出て遊ぶ児童の割合はとても高かった。一方で、伝法体操については、毎週行っている学級と行っていない学級が見られた。

次年度への改善点

- ① 一人一授業について、討議会がないため意見を共有する場がないことがあった。紙に意見を書いて授業者に提出するなどの機会を設けることを共通認識しておく。
- ② 音読タイムや朝の学習の時間の取り組みができていないことがあるので、それぞれの時間の進め方について検討する必要がある。(R9年度の研究発表に向けて、学校全体として具体的に考える。)
- ③ 伝法体操は、決まった曜日に確実に実施するようにする。

大阪市立伝法小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の80%以上にする。(前年度 50.3%) 2/27 現在 75.7% ・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を100%以上にする。(前年度 96.2%) 2/15 現在 88.46%	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容① 【本市基本計画番号6-1 ICTを活用した教育の推進】 朝学習・家庭学習・心の天気等において、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと、協働的な学びの質の向上をめざす。	B
指標 学習使用者端末を学習時や伝法タイム等において毎日活用する。	
取組内容② 【本市基本計画番号7-1 働き方改革の推進】 長時間勤務の解消を通じ、教職員が子どもたちの前で健康で生き生きと働くことができ、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保する環境の実現をめざす。	B
指標 学校閉庁日を設けたり、教職員間でのフォロー体制を整えたりすることで、年次有給休暇を取得しやすくする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
① 学年に応じて学習者用端末を心の天気、コグトレ、ナビマ、調べ学習、タイピング、アンケートなどに活用することができた。一方で、使う頻度や使い方のルールの徹底、家庭に持ち帰っての活用などについては学年によってバラつきがあり、学校及び家庭での使い方についての共通理解をきちんと図る必要がある。 ② 教職員間でフォロー体制が整っているため、年次有給休暇を取得しやすい環境であった。	
次年度への改善点	
① ・教室や家庭でのタブレットの活用に仕方について教職員全体で共有できる機会(研修会など)を設ける。家庭への持ち帰りは基本的に毎日行うよう共通理解を図る。 ・長期欠席や入力が困難な児童の活用について考える必要がある。 ② 業務内容は依然として多いため、他校の働き方改革の実施例を参考にしながら、伝法小にとってより良いものを検討していく。	

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立伝法小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果については、妥当である。それぞれの取組についても課題解決に向けて着実に前進していると評価された。今後も課題改善に向けて、より工夫を加えながら継続して取り組んでいくことを期待するとの意見を受けた。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、各学年、いじめ防止に取り組み、目標を達成することができた。今後も引き続き自己有用感を高め自他の尊厳を認め合う様々な活動の実践を積み重ね、いじめを許さない集団づくりに努めて欲しい。また、規範意識や自律の意識を高めるような取り組みを継続して行ってほしいという意見を受けた。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

公開授業を含めた研究授業を計画的に実施することで、教員は授業力向上に熱心に取り組んでいる。小学校学力経年調査における国語・算数の平均正答率は向上が見られた学年とそうでない学年があった。学力向上については、まだまだ課題が見られるが、これまでの取組を引き続き粘り強く実践することが大切だという意見を受けた。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

今年度、学習者用端末を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの質の向上を目指した取り組みは一層進んだ。一方で、ICTだけに留まらず、実際に「読む・書く力」も身に付くよう指導してほしい。教職員が生き生きと働くことができるような環境整備が進んでいる。教員・子ども双方の学校生活を充実させるためにも、引き続き環境整備に努めて欲しいという意見を受けた。

3 今後の学校園の運営についての意見

児童の体力向上に向けて、工夫した取り組みを今後も続けてほしい。学校の情報発信により努めてほしい。